

躍進

Y A K U S I N

No. 9

株式会社 加藤組社内報「躍進」

発行日／平成元年 8 月12日

発行／株式会社 加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18-6 TEL (0185)25-3001(代)



株式会社 加藤組

光飯商事株式会社 日本アスコン株式会社
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社

男鹿の海岸を護る50トンテトラポット

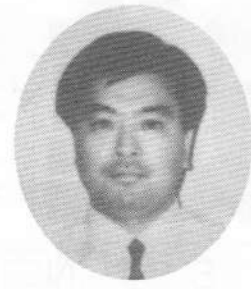


テトラポットによる離岸堤 (戸賀湾)



次代の ために 若い力で 挑戦を

副社長 加藤 義 康



皆様お揃いで楽しいお盆休みをお過ごしのことと思いま

平成元年の折り返し点を安寧のうちに迎えられたことは、社員・従業員の努力と、ご家族の暖かいご協力のお蔭によるものと感謝いたします。企業の安定は安全によって約束されるものだけに、今後共会社一丸となって安全意識の高揚に最善の努力を傾注してまいりたいと思えます。

さて、我が社は若い社員・従業員を多く擁するだけに、その燃える血潮に将来を期待せずにはいられません。しかしながら現代は、物質的にあらゆる面で満たされた時代ではあるものの、多様で流動的なきも行く手の不透明な時代でもあります。身に付いた経験を生かせ切れぬ新しい

現象が次々と我々の身の回りに起こった時、自らの能力と努力によってそれらを打開していかねばなりません。

そしていくら優れた知識や技能を習得していても、それが現実を生かされるためには、それぞれの状況において自身の創意工夫を最大限發揮することが必要になってきます。つまり、与えられたものだけを頼りにすることには限界があり、個性あるアイデアが十分加味されてこそ好結果がもたらされると確信しております。

若いということとは、いつでも新しいものに挑戦しようとする積極的な気概と姿勢を持つていことだと思えます。

いつの時代も新しいものに挑戦する時は、躊躇と不安、そして偏見と不信がつきまとうものですが、綿密な計画とたゆまぬ努力を忘れぬ限り必ず成功に結びつくものです。若手社員・従業員には特にそれぞれの現場において何も恐れることなく、持てるパーソナ

リテイヤーをフルに發揮し、行動を旨とし会社発展に貢献してもらいたいと思えます。

さて、(株)加藤組が平成元年という大きな変革の時代に創業五十周年を迎えたことは、誠に意義深い思いがいたしました。今後も創業の思いを忘れることなく、歴史に刻まれた独自の社風を継承しつつ大きな志と果敢な行動力をもって、会社に対してはもちろんのこ

と地域社会にも堂々と活躍できる人間であってほしいと願うものです。

新時代の幕明けが我が社の次代に安定と安全をもたらすよう、一同のさらなる精進を心より期待するものです。

諸葛孔明の兵法から 機(チャンス)を逃すな!



中国の兵法家といえ、孫子という名前が知られていますが、死せる孔明、生ける仲達を走らす」ということばでもわかるとおり、死んでからも敵将を悩ましたほどの兵法家が孔明です。その孔明が、相手に勝つための要点として、次のように

①事機(事態の変化)が有利に展開しているのに、それを生かせないのでは、智者とはいわれぬ。
②勢機(態勢の変化)が有利に展開しているのに、それに乗ずることができないようでは、賢者とはいわれぬ。

智者が愚者に勝つのは当然

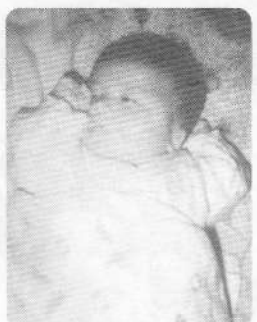
人事異動

(株)加藤組 元・8・1付
○船木 光一
第35海光号副艇長

光飯商事(株) 元・8・1付
計算、集計事務などの一切を、コンピュータを駆使して担当している情報管理室は最近、機器の販売や業務用ソフトの開発・販売などの業務が増大し軌道に乗ってきたので、このたびの組織改正で、光飯商事株式会社所属となりました。

- その体制は次のとおりです。
- 室長 栗森 吉照
 - 加藤組総務課長代理兼務 情報管理主任 鈴木 浩悦
 - 同 副主任 高桑 広貴
 - 室員 小山田定昭
 - 濱野 天治
 - 高橋美穂子
 - 高野 智美

こんにちは 赤ちゃん



社員にかわいい赤ちゃんが生まれました。
これから、当社も男鹿市も背負って立つ人材に育つよう、皆んなで、やさしく見守ってあげましょう。

土木部土木係長 石川 守さんの長男
ひろき
宏樹ちゃん
平成元年4月22日生



土木課 佐藤 雅 宜

建設業で働く 若者からのメッセージ

決心するために 千日が必要だった

学校で建築・土木関係の基礎を勉強し、地元に加藤組に入社してから丁度三年。石の上にも三年」という言葉がありますが、私も、この三年間で迷いがようやく消えて、自分の一生の仕事として、建設業に徹しようと決心を固めることができました。

三年という期間、私にとって、この三年間——千日間は、悩み、苦しみ、迷った長い長い期間でした。なぜこのように苦勞しなければならぬのか。同年輩の他のサラリーマンや、同級生の話を聞いたり、姿を見れば、自分ばかりが損な仕事を担当し、みじめな思いがしてくるのです。そのような苦しみを先輩や友人にもなかなか相談できず、毎日元気がない無口な私をみて、母親がどれだけ心配してでしょうか。時には仏壇の前で私の父に話しかけておりました。私の父親は、加藤組の設立当時から会社にお世話になった、根っからの土建屋で、ただ働くだけが楽しみ——というよりも働くことに使命感をもった人でしたが後年は健康を害し、私が大学を卒業する前年の十二月、私の就職を確かめることなく他界してしま

いました。私が土建関係の学科を選び、少年の頃からこの道に進もうと決めたのも、父親の働く姿をみて、それにひかれたためです。その息子が毎日のように悩み、苦しんでいる姿をみて、母も亡き夫に愚痴をこぼすよりほかになかつたかも知れません。

悩みがたくさんあった

私の悩みは、就職して一ヵ月後に始まりました。最初の一ヵ月は、亡き父がお世話になり、地元第一の加藤組に就職できた喜びと、職場案内や研修などで、楽しい毎日を過ごしました。それが、作業現場に配置され、測量、丁張り、資材の手配、工程管理、安全管理、施工管理、工事関係書類の作成など、始めは手伝いでしたが、段々に自分独りでやるようになったときから悩みが始まりました。

第一は、学問と現場の違いです。机上で勉強したことと実際の現場が違うことは、当然ですが、現実には頭で理解していた程度をはるかに超えていました。設計図書や仕様書に明記されていない部分があったり、逆に、詳細に書かれてあるがために、千差万別の現場に合わないということもありました。今思えば、その違いは僅

かですが、初めて、直面した時は、天地ほどの差を感じたものです。

第二は、不規則な勤務時間です。八時頃出社して五時頃退社し、日曜、祝日は休みという形を想定していましたが、建設業に就職してみたら、遠い現場の場合は、七時に家を出て、現場の仕事が終わってから本社で書類の整理や報告書の作成などをすれば、帰宅は八時頃になることも珍らしくありません。日曜日現場が忙しいときは出勤します。学生時代に考えていたサラリーマンの姿とは大きな違いがありました。

第三は、発注者と会社の板ばさみになることです。お客様は神様です」といったのは、歌手の三波春夫だったと思いますが、発注者は神様です。発注者の希望に添うように工事をしなければなりません。一方、会社は企業ですから、会社に損害を与えるようでは、現場員として失格です。そういう悩みもまた大変なものでした。

第四に、安全管理です。「安全第一」という言葉が定着しても現実の安全管理はまだ遅れているのではないのでしょうか。企業として利益を追求することは当然ですし、私たちも、能率的な仕事をするため

に、いろいろ工夫し実行してきます。安全作業をすることが結果的に能率向上につながるのですが、現場を直接担当すれば、安全と能率は二律背反的に思えるのです。

与えられた場所でも満足できない者はどこへ行ってもだめだ



ありし日の
佐藤前副社長

働くために休む 若者の気持ちを 理解して欲しい

最後に、建設業界全般にお願いがあります。

土建業イコール長時間労働というイメージを早く払拭してもらいたいと思います。適当な休養がなければ、体力も気力も回復できません。特に今の若い世代は、気分転換の必要性が高く、昔の大人達はそれを遊びというかも知れませんが翌日の勤務の活力になることを理解して欲しいと思います。私たち現場員も定められた時間内で安全に能率よく与えられた仕事を完全に消化しますから、休養の大切さを、業界全体に早く定着するようにお願いします。土建業は国土を作る仕事です。あらゆる業種の基盤づくりであり、基本であるとの誇りをもって、私の一生の仕事として大事にし、頑張りたいと思います。

現場レポート

滝の下道路
改良第一工事

間もなく完成

土木主任
荒木 聡

工事場所

秋田市浜田字滝の原地内

工事内容

●ボックスカルバート長三四m、高五m、幅九m

●道路新設 五〇〇m(残土約二六、〇〇〇m)

工事期間

三月二十九日から九月二十日まで



秋田から酒田方面に通ずる国道七号線の交通緩和を図るために計画されている南バイパス工事(受注額一億円)については、当社と栗原組との企業体を編成して実行することになり、現場代理人として私が指名されました。

この工事をどのように進めるのか、下請業者をどうするのかなど、工事の段取りについて、栗原組の担当者と、事前に綿密に打合せました。この打合せなどに時間がかかり実際に現場に乗り込んだのは四月下旬でしたが、その後の作業は順調に進みました。

道路新設に伴う捨土量が約二万六千㎡(切土約四万㎡、盛土約一万四千㎡)あり、この運搬を円滑に行うことに苦労しました。一日十台以上の



ダンプを、交通量の多い七号線を使用して十数往復させるため、交通安全、特に現場の出入りに気を配りました。

この作業が運搬業者の協力もあって、梅雨期前にはほぼ終了し、このことが今回の工事全体の成果に効果があったと思っております。

ボックスカルバート工事についても、鉄筋、型枠、足場など、専門の数社が下請として入りましたが、各社間のチームワークも良く、また、千

㎡にも及ぶ生コンの搬入も計画どおり進みました。

現場をあくまで安全第一に徹して仕事を進めましたが、栗原組から派遣されたスタッフの方も、手順よくテキパキと仕事を進めてくれました。仕事が順調に進めば事故も起きないと思います。

間もなく完成することになった現在、これからこそ正念場であると自覚し最後の最後まで安全最優先で実行しようと思えます。

現在実行中の 主なる工事現場

- 東北自動車道(雄和)
工期 八月三十一日
現場代理人 田中健一
- 東北自動車道(南外北)
工期 十二月三十一日
現場代理人 伊藤彦助
- 東北自動車道(協和南)
工期 十二月三十一日
現場代理人 成田義則
- 高速交通関連道路整備
舗装工事 七〇九m
工期 十一月十八日
現場代理人 佐藤雅宜
- 門前漁港改良工事
防波堤築造、消波ブロック
工期 十月十六日
現場代理人 伊勢谷 寿
- 海岸防災林造成
六脚ブロック製作、据付
工期 十二月十日
現場代理人 小野俊剛
- 石油備蓄内諸工事
工期 八月三十一日
現場代理人 石川 守
原田康文
- 地方港湾改修工事
工期 八月三十日
現場代理人 夏井直弥
- 男鹿北中学校建築
RC三階 一、六一七㎡
工期 二年三月二十日
現場代理人 伊藤 満
安田張幸

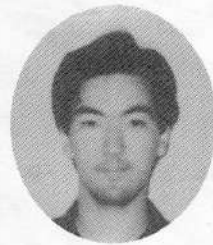
独身社員の研修旅行記

二度とない青春を謳歌

建築課長代理 伊藤 満

独身時代は青春の真ただ中、二度と来ないこの良き時代を有意義に過ごすための一助として、会社では昨年から独身社員の研修旅行を実施しております。

一泊二日の短期間ではありますが、独身社員はこの研修旅行を通じて、日常では感じとれない「何か」をキャッチした模様です。この「何か」がこれからの人生に、そして日常の業務に反映されることを期待します。



独身社員の研修旅行は、昨年に引き続き二回目で、七月一日、二日の日程で実施されました。

第一日は、十一時に本社前を出発。時間の関係で、予定していた森林博物館の見学を割愛して、県立中央公園トレーニン

十四時から秋田救難隊の見学です。救難隊の組織の内容や役割、緊急時の体制、救助活動など、ビデオも含めて丁寧に説明してもらい、改めて救難活動の重要性を知り、毎日厳しい訓練を続けている隊員の意気込みと身近に接して強く感銘しました。次にヘリコプターと飛行機を見せられて、ジュラルミンでできている機体に触れて、救難活動そのものを実感しました。また、翼についている紐状のもの

は静電気の放電用のものがあることなど、私たち一人ひとりの質問に詳しく説明してくれました。

救難隊を後にして、トレーニングセンターに全員集結しました。体育館のコートでテニス、卓球に汗を流しました。中には、久し振りに身体を動かす人もおり、珍プレーや好プレーの連続で、体育館全体に笑い声や歓声が湧きあがり、会社で仕事している時とは違った一面を見ることができ、多少でも研修の効果があつたと思います。



体育館の外には夕闇が迫り、夕食の時間になりました。夕食は団長の挨拶と乾杯のあとと歓談に入りましたが、スポーツをした後のビールは格別で、日頃の心配ごとが一気に通り抜けていく感じがした。夕食のメニューは、最高の松でしたので、結構、いけたと思います。ビールで気分が良くなったところで意見交換に移りましたが、これといって改めて話すこともなく、不発に終わりました。しかし、言葉にださなくても、青春を十分に謳歌したことには変わりなく、二十二年の消灯まで、楽しく、有意義に過ごしました。

私もひとつ

総務部 三浦久美子 (二十二歳)

同じ職場にしながら、日常はほとんど会話を交わす機会のない人達との交流は、自分を振り返ることもでき、人と人との交わりの豊かさを考えることができました。

情報管理室 小山田定昭 (二十五歳)

今回で二回目の参加ですがとても有意義に過ごすことができました。

日本アスコン 湊 牧子 (二十二歳)

今年もまた独身社員の研修旅行に参加してしまいました。去年は去年で楽しく、今年はいつまでも参加することになり、チョッピリ心配です。

SPORTS

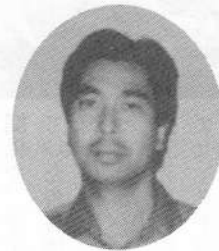
加藤杯野球盛大に挙



第12回

男鹿CCR三連勝

住宅相談室本部長 伊藤剛樹



第十二回加藤杯争奪野球大会は、脇本地区から出場した男鹿CCRチームが三年連続優勝の偉業を達成した。

試合は、二十三チームが参加し、四ブロックに分かれて熱戦を繰り広げた。男鹿CCRが予想どおりの強さを発揮し、準決勝では苦戦したものの、他では圧勝し、特に最優秀選手賞に輝やいた加藤進選手は二本のホームランを放つなど、チームのリーダーとして勝利に導いた。

また、毎年緒戦で敗退していた男鹿興業社チ



社長からCCRへ優勝旗授与

大会を振り返ってみると、参加チームが毎年同じ顔ぶれというせいもあって、強いチームと弱いチームがある程度固定してしまつて、勝敗の興味が薄れがちになつてゐる。予選ブロック編成の検討、あるいは新チーム参加の勧誘も必要と思われ。今後の検討課題であろう。

チームは過去にブロック優勝の経験がある安全寺ファイターズ、相川ジャガース、脇本ユニオンズを連破して、初のブロック優勝を飾り大会を盛り上げた。

でした。来年は必ず参加し、優勝旗を会社ロービーに飾りたいものです。決勝トーナメントの結果は次のとおりです。

過去二連勝(通算三回)の優勝経験のある当社チームは最近低迷を続け、今年こそは、と張切っていたが、主力メンバーが独身者研修旅行の帰社時間が遅れ、不戦敗になつてしまつたのは、誠に残念	南磯パニックス	10001020	0	4
男鹿CCR	南磯パニックス	3	2	船川武蔵
男鹿CCR	南磯パニックス	3	2	船川武蔵

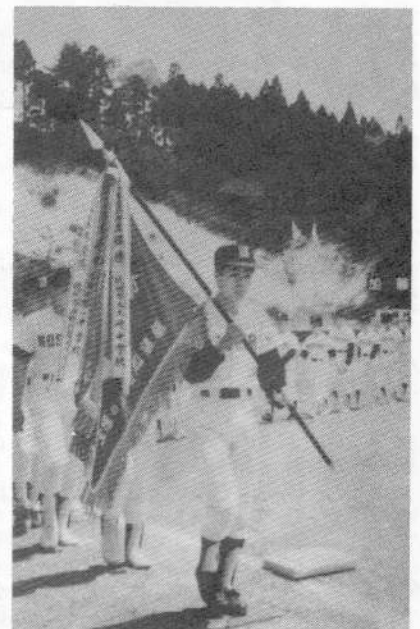
第十一回少年野球

土崎中学校 四回目の優勝を飾る

数えて十一回目の選抜少年野球大会は、前年度優勝の能代二中など男鹿市外からの四チームと市内四チームの間で六月三、四の両日に行われた。

のとおりであります。

土崎中 2-0 船川中
能代二中 2-1 男鹿東中
土崎中 2-1 能代二中



堂々の入場行進

開会式の入場行進には男鹿東中のプラスバンド隊の協力があり、また、始球式も同校の校長先生のストライク投球によつて、東中の意気が大いにあがり、一回戦で潟西中に大勝したときは、このまま突走るかと思われたが、準決勝で前年度優勝の能代二中に破れ、この能代二中も決勝では伏兵土崎中に破れて連覇の夢が消えるなど、波乱の多い今大会であった。

日本海ゲートボール親善大会 津軽GBCが初優勝

第四回日本海ゲートボール親善大会は、六月七、八の両日、男鹿市総合運動公園において、男鹿市ゲートボール協会(当社社長が会長)の主管のもとに、八十四チームが参加して実施された。各チームとも技術が伯仲し、大接戦の結果、遠来の津軽ゲートボールクラブ(B)が初優勝。

安全衛生委員会から

無災害の決意も新たに

平成元年度 上期安全大会実施

当社の上期安全大会は、七月八日に従業員一〇〇名、協力業社の代表二五社が参加し調和会館において盛大に実施されました。

澁本議長の開会のことばに次いで、安全重点目標及び安全五か条の唱和で大会を盛り上げ、安全活動に功積のあった従業員五名と、協力業者二社に対して安全表彰が行われました。

その業者を代表して、門間工業の社長さんから、型枠や足場作りの大切さと、作業員に対する安全教育、能率向上策など、自ら実際に作業に従事した経験も含めて安全発表をして戴きました。内容的には、日頃当社で安全教育をしている手法と特に変わってはいいませんが、他社の方の、角度を変えた表現によって、理解が深まったことと思います。

ず、身体づくりが大切であり現在の健康状態を維持するためにはどうするのか、食べ物や運動、生活態度など、面白い例を引用しながら、笑いのうちに理解させる話し方は流石であると思いました。

健康な身体であればこそ、安全作業が可能であるし、仕事の能率が上がり、成果もよくなるのです。このことは頭



安全最優先を強調する社長

挨拶にたった社長は「受注工事が増え、現場の仕事

とつとして「下請協力業者への安全教育の徹底」を掲げていることから、現在の、当社の事業に協力してくれている業者の出席を求めています



安全の基礎は健康 茂泉先生

ユニークな話し方で定評のある聖園学園短大教授の茂泉陽子先生にお願いしました。

ただでなく、肚の底からわかかって欲しいと思います。大会はこのあと、夏井委員

話の始めに、全員起立し、体操をさせられ、まずパンチを受けました。話の内容は、安全作業をするためには、ま

長の経過報告があり、最後に沢田専務の閉会のことばで締めくり、参加者一同は、無災害の決意を新たにしました。

表彰された方々

この大会で表彰された方は、従業員五名と、協力業者二社でした。表彰された方々に心からお祝い申し上げます。この表彰を機に現場の安全活動の推進役になることを期待します。



佐藤庄栄さん (車両)

バックホーなどの重機を安全に効率的に運転し、無災害を続けている。



明石洋子さん (港湾)

上司の安全指導をよく守り同僚間の協調に努め、無事故を続けている。



夏井直弥さん (港湾)

二つの現場の責任者として無事故で、工期内に余裕をもって完成させた。



沢田庄市さん (建設運輸)

長期間にわたって生コン車を運転し、無事故、無違反を続けている。



佐藤雅宜さん (土木)

現場の安全管理を積極的に推進し、作業員の安全教育も徹底している。



有限会社 臨海工機建設様 秋田市飯島川端1-4-1



株式会社 小坂設備様 男鹿市船川港船川字船川45

加藤組のあゆみ⑨

私が入社した頃

昭和四十年頃、私は大阪に本社のある東洋建設の社員で勤務地は広島、仕事の内容は港湾関係で、いわゆる単身赴任でした。

その頃、加藤組では土木、舗装工事に加えて、港湾関係の仕事にも着手し、経験者を採っておりました。地元出身の私が遠くで港湾の仕事についていることを知り、先生から再三お手紙を戴きました。私としても、いつまでも単身で故郷を遠く離れた所での

仕事も大変ですので、昭和四十七年に郷里に帰り、加藤組に入社しました。私が四十五歳の時の転進です。

月給は確か八万円位だったと思います。東洋建設に勤めていたときは、もう少し多く留守宅に仕送りしていたので、郷里で仕事ができることと、スタート直後の加藤組港湾課の全責任をもたされ、その意気を感じ張切って仕事を

当時の港湾課の体制や船の規模、設備などについては、本誌「加藤組のあゆみ」④⑤⑥に記載されているので省略しますが、常に不安がつきまとい、失敗したらどうするか、台風、事故のことを考えると眠れない夜が続くこともありました。

昭和五十年代に入ってから受注高も増え、会社としてある程度の自信もついたので、五十五年には一二〇吨吊りの起重機船を建造し、県内では

最高の陣容になりました。そして、五十六年に能代港灰捨護岸工事を受注し「港湾の加藤組」の名を高めました。工事期間中に発生した日本海中部地震の被害が全くなかった幸運にも恵まれ、以後順調に仕事が進んできている現在、入社当時を振り返ってみると感無量のひとことに尽きます。

港湾の仕事が、今後とも安定して続けられるよう祈っております。

◇ ◇ ◇

お盆が過ぎれば秋はもうすぐです。暑さによる疲労を早く回復させ、頑張りましょう。

フアミリー紹介

住宅相談室長(30歳)

原田博信さん一家



父 金三郎さん (58歳)
 母 カヨ子さん (54歳)
 妻 洋子さん (27歳)
 長男 和宗ちゃん (4歳)
 次男 昌宗ちゃん (2歳)

原田博信さんは、昭和五十二年春、秋田工業高校建築科を卒業後、直ちに当社に勤務し、建築関係の仕事ひと筋に頑張っており、この間、表彰を受けること二回、六十一年一月からは住宅相談室長の要職につき、建築工事の現場監督のほか、個人住宅建築の良きアドバイザーとして当社の住宅部門進出の中心になって

います。

昨年秋には、本職であるお父さんの助言と、自らの十年間の経験を活かして自宅を建築し、ご両親と一緒に六人家族がにぎやかな毎日を送っています。

原田さんは、仕事の関係で早朝出勤、残業も多く、お父さんと奥さんも勤めがあるた

編集後記

よくもこんなに暑い日が続くものかと思うほど、連日の好天です。

高温続きで稲作には良いでしょうが、今度は水不足が心配です。また、この暑さのなかで現場で働く皆さんは大変でしょう。心から「ご苦労様」と申し上げます。

◇ ◇ ◇

当社は創業五十周年を迎え「五十年の歩み(仮称)」を発行することになっています。そのためには創業当時の写真、記録、回想などが是非必要です。八月中に準備したいと思っておりますので、社員はもちろん、ご家族、先輩の方々のご協力をお願いいたします。

自己都合による退職

- 森元次男さん 4・30付
- 畠山一彦さん 4・30付
- 柴崎 司さん 5・20付
- 加藤里佳さん 6・4付
- 小玉照美さん 6・6付

長い間「苦勞様でした」